

教育委員会だより

令和8年7月23日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

活動の主体者として ～あいさつで絆の日～

7月1日(水)、今年度1回目の「あいさつで絆の日」が市内全小中義務教育学校で行われました。朝早くから「青少年まちづくり市民会議」に関わる方をはじめ、区長さんや地域の見守り隊の方などが校門前などの場所に立ち、児童生徒に笑顔で「おはよう」と声をかけてくださいました。もちろん、先生方の参加もありました。地域と学校と市教委が一体となり行うあいさつはなんだか心が温まります。



しかし、子どもたちにとっては「あとちょっとで学校」という場所です。お家からここまで歩いてきています。汗をいっぱいかいている子もいました。結構、へとへとになっている感じです。それでも、我々の挨拶に元気よく応えてくれる子がたくさんいて、心はさらに温まりました。

右上の写真は南姫中学校の「あいさつで絆の日」の様子です。よく見てください。体操服を着た生徒が歩道に列に遥かかなたまで並んでいます。当初、生徒会の子を中心に数名の生徒が大人に混じって「ハイタッチあいさつ」をしていました。登校してきた生徒たちはハイタッチを済ませると、次から次へと自分も「あいさつの列」に加わり始めました。結局、活動が終わるころには90名近くの生徒が列に並んでいました。あまりの列の長さに、カメラを持っていた校長先生に「写真撮って送ってください」とお願いした一枚です。

今年度の南姫中学校の生徒数は101名です。およそ9割の生徒が参加したことになります。市民会議では「わたしの主張大会」や「まちづくり市民大会」で「生徒主体」を掲げて取り組んでいます。長年にわたる取組の蓄積の結果、生徒が学校や地域のために「主体者として」活動に参加しようという動きが南姫だけでなく、多治見市中で見られるようになっていきます。今、自ら行動を起こす多治見の中学生が熱いです。主体的に行動する彼らは、大人への階段を一段一段確実にのぼっていると感じます。そんな彼らを全力で応援したくなります！！

幼保小中一貫教育のススメ ～笠原こども園～

7月15日(水)、今年度4月に笠原小中学校の開校とともに開園した「笠原こども園」の教育長訪問に行きました。旧園舎のリフォームと新たな園舎の増築、園庭の整備も終わり、子どもたちの元気な声と明るい笑顔があふれていました。子どもたちのかわいらしさは、日々の業務に追われる私たちの心をたっぷり癒してくれました。



年長さんの「おまつりごっこ」を参観しました。ぞう組さんがお店を開き、らいおん組さんがお客さん役です。お店は「さかなすくい」「わたがし」などです。我々も手作りのお金をいただき、参加させてもらいました。お店に行くと商品を猛アピール、自分で作った物を渡したかったのだと推察します。ホールには子どもたちの元気な声が充満し、活気ある活動の中でコミュニケーション能力の学びが存分にできていました。「楽しい？」と聞くと、全員から「楽しい！」との反応が返ってきました。その後、役割交代…再び元気な声が…楽しいひと時でした。

そんな「おまつりごっこ」ですが、小学校2年生でも、生活科の学習で落ち葉やドングリを使ったおもちゃを作成して、1年生を「秋祭り」に招待していることを思い出しました。そして、同様の学びが入学前にも実施されていることを再認識しました。第3次多治見市教育基本計画には「幼保小中一貫教育の推進」が掲げられています。例えば幼児期からの体力向上を意図して「いきいき運動遊び」を実施したり、幼・保・こ・小の「架け橋プログラム」を推進し、カリキュラムの交流などを行い、円滑な接続を目指したりしています。そんな施策の具体像が見られた訪問は、教育委員会としても大きな財産となりました。

多治見産がおいしい！～地産地消のたじっこ給食～

今年も「たじっこ給食」が提供されています。地元産のトマトやイチゴに加え、新たな食材として今年から「はちみつ」がラインナップ。「多治見ではちみつ？」と思いきや、多治見西高等学校で養蜂が行われ、はちみつの販売を手掛けている情報をつかんだ食育推進課が学校と交流を重ね、提供が実現しました。養蜂の取組の様子を動画で見ながら、笑顔で「ハニーソーテー」を食べる子どもたちの様子が各校から伝わり、地元産の食材活用の価値を改めて実感しました。

また、この内容はテレビや新聞でも紹介されました。食育について特化した課が存在する本市の強みをこれからも推進していきたいと思えます。